



研究費 留学費用を 支援します

平成24年度
小児科医育成・支援事業 結果報告
(詳細2面)

“予防接種 受けなかったらどうなるの?!”
市民公開講座のお知らせ
(詳細2面)

◆ 特別寄稿

最近の母子保健を取り巻く状況について

平成25年度母子保健対策関係予算案の近況報告をいたします。

妊婦健診については、妊婦の健康管理に必要な回数(14回程度)の妊婦健診を受けられるよう既に地方財政措置されている5回分に加え、平成20年度から残りの9回分の公費助成を補正予算により基金を創設して実施しているところであります。

妊婦健康診査支援基金については、「平成25年度における年少扶養控除等の見直しによる地方財政の追加増収分等の取扱い等について」(平成25年1月27日三大臣合意(総務大臣、財務大臣、厚生労働大臣))に基づき、これまでの補正予算に替わり、平成25年度以降は地方財源を確保し地方財政措置を講ずることにより、恒常的な仕組みへ移行することとしたところであります。

各自治体に対しては、妊婦健診の公費助成が安定的・継続的に実施され、地域において安心・安全に妊娠し出産できる環境づくりが進むよう引き続き積極的な取組みをお願いしています。

また、小児慢性特定疾患対策については、今日的視点で、改めて小児慢性特定疾患児への支援の在り方を検討するため、社会保障審議会児童部会に「小児慢性特定疾患児への支援の在り方に関する専門委員会」を設置しました。

当専門委員会は、平成24年9月から平成25年1月にかけて計6回開催し、慢性疾患を抱える子どもとその家族への支援の在り方に関する基本的考え方及び慢性疾患を抱える子どもとその家族への支援の在り方に関する課題と方向性を中間報告として取りまとめました。

今後、示された方向性に基づき、厚生労働省において検討を深めていきます。

関係各位におかれましては、上記2点も含め母子保健について更なる研究の推進をお願いするとともに御理解御協力を頂けますようお願いいたします。



厚生労働省雇用均等・児童家庭局
母子保健課長

桑島 昭文

News Letter

平成24年度 研究助成金交付対象者・海外留学フェロシップ・アワード(優秀論文著者)

平成24年度 受賞者が下記のとおり決定いたしました。

研究助成金

滝田 順子	東京大学医学部附属病院	「先端的ゲノミクスを用いた小児難治性腫瘍におけるがん細胞集団進化の解明」
加藤善一郎	岐阜大学医学部附属病院小児科	「インターロイキンにおけるリガンドレセプター複合体の立体構造を基盤としたアレルギー・免疫異常疾患の病態解明・新規分子標的薬剤探索」
鏡 雅代	(独)国立成育医療研究センター研究所 分子内分泌研究部臨床内分泌研究室	「14番染色体インプリンティング制御メカニズムの解明」
今村 俊彦	京都府立医科大学小児科	「Early T cell precursor acute lymphoblastic leukemia における新規治療標的の探索」
山澤 一樹	慶應義塾大学医学部小児科学教室	「メチル化異常に起因する小児先天異常症候群においてヒドロキシメチル化が果たす役割の解明」
二井 健介	マサチューセッツ州立大学	「シナプス接着因子の機能解析による自閉症発症機序の解明」

優秀論文アワード

和文誌：(小児医学研究振興財団アワード)

渡邊 愛可 地方独立行政法人加古川市民病院機構
加古川西市民病院小児科
「PFAPA症候群20例の臨床的検討」
日本小児科学会雑誌 2012;116(5):835-841

欧文誌：(小児医学研究振興財団アワード)

幾瀬 圭 順天堂大学医学部小児科
「Microarray analysis of gastric mucosa among children with Helicobacter pylori infection」
Pediatrics International 2012;54(3):319-324

欧文誌：(日本イーライリリーアワード)

森 達夫 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部小児医学
「Evaluation of the GABAergic nervous system in autistic brain:¹²³I- iomazenil SPECT study.」
Brain&Development 2012;34:648-654

欧文誌：(日本イーライリリーアワード)

松尾 理沙 鳥取大学大学院医学系研究科 脳神経小児科部門
「発達障害児の親を対象としたPTの実態と実施者の抱える課題に関する調査」
小児の精神と神経 2012;52(1):53-59

海外留学フェロシップ (日本イーライリリー株式会社協賛)

江川 潔	北海道大学大学院医学研究科 医学部病態制御学専攻 小児科学分野	「自閉症スペクトラムにおける神経細胞CI-濃度調節機能破綻の関与とそのメカニズムの解明」
井手健太郎	国立成育医療研究センター 集中治療科	「頭部外傷後の発達障害に対する血清バイオマーカーによる予後予測モデルの確立」

市民公開講座

—入場無料—

あかちゃん
子どもの

予防接種 受けなかったらどうなるの?! 詳細は5月初旬頃より当財団



日時 ● 2013年7月7日(日) 13:30~16:00

場所 ● 国立成育医療研究センター 講堂(1階)

共催 ● 日本小児科学会、国立成育医療研究センター

後援 ● 厚生労働省、東京小児科医会、東京産婦人科医会、
日本保育園保健協議会、世田谷区医師会

協賛 ● MSD株式会社、ジャパン・ワクチン株式会社、
(一財)阪大微生物病研究会



留学体験記



ケンブリッジ留学見聞録



慶應義塾大学医学部
小児科学教室 助教

山澤 一樹

私は、イーライリリー海外留学フェローシップのご支援を頂き、2009年から2年半、英国ケンブリッジ大学に留学する機会に恵まれました。ケンブリッジは、ロンドンの北約80kmに位置し、創立800周年を迎えたケンブリッジ大学を中心として中世から続く学園都市であり、歴史的建造物と豊かな自然が印象的な街です。万有引力の法則を発見したニュートン、進化論のダーウィン、物理学者のホーキングなど数多くの著名な研究者を輩出し、ノーベル賞受賞者数は世界の大学・研究機関の中で最多を誇ります。先日京都大学の山中先生とともに、ケンブリッジ大学のJohn Gurdon先生がノーベル医学・生理学賞を受賞されたことは記憶に新しいところです。

私は、生理・発生・神経学部のAnne C. Ferguson-Smith研究室に博士研究員として所属し、ゲノムインプリンティングの基礎的研究に従事いたしました。ゲノムインプリンティングとは、哺乳類ゲノム中に父親由来か母親由来かという情報が記憶されている現象であり、特に胎児や胎盤の成長、発達に重要な役割を果たし、その破綻は様々な小児先天異常症候群の原因となります。この現象は約30年前にケンブリッジ大学で発見され、以来、ケンブリッジはエピジェネティクスや幹細胞研究の分野で先導的役割を果たしています。このようにハード、ソフト共に素晴らしい環境に恵まれ、充実した研究生活を送ることが出来ました。留学で得られた世界中の研究者とのネットワークや、生命科学に対する大局的な視点は、かけがえのない財産です。また海外で暮らすことによって、より客観的な視野で日本の長所および短所を評価できるようになったことも本当に有意義でした。最後になりますが、今回の留学をサポートして頂いた小児医学研究振興財団に心より御礼申し上げますと共に、貴財団の益々の御発展をお祈り申し上げます。



ラボメンバー集合写真。
ケム川に架かる橋（「ケンブリッジ」の語源）の上にて。

ホームページ（<http://www.jfpedres.or.jp/>）のご案内致します。

プログラム（敬称略）

総合司会 ● 五十嵐 隆（国立成育医療研究センター理事長・総長）

開会挨拶 ● 柳澤 正義（小児医学研究振興財団 理事長）

第1部 ● 予防接種の効用と副反応

多屋 馨子（国立感染症研究所感染症疫学センター 室長）

● 予防接種の種類と接種スケジュール

宮入 烈（国立成育医療研究センター生体防御系内科感染症科医長
感染防御対策室 室長）

第2部 ● パネルディスカッション

閉会挨拶 ● 加藤 達夫（国際医療福祉大学教授 国立成育医療研究センター 名誉総長）

※プログラム内容・順序等に若干の変更が出る可能性があります。

賛助会員(個人)

※敬称略 五十音順

- 赤司 俊二 安次嶺 馨 熱田 裕 雨宮 伸 鮎沢 衛 新垣 義夫 荒川 浩一 有賀 正 有阪 治 飯塚 幹夫 五十嵐 隆 池本 博幸 石井 正浩 泉 達郎 位田 忍 井田 博幸 井田 孔明 板橋家頭夫 市田 路子 逸見 睦心 伊藤 悦郎 伊藤 末志 伊藤 進 伊藤 辰夫 伊藤 保彦 伊藤 雄平 稲垣 由子 猪股 弘明 今井 秀人 今泉 益栄 岩田 敏 岩田 力 岩元 二郎 内田 正志 内田 祐子 内山 聖 畝井 和彦 宇理須厚雄 江口 尚彦 衛藤 隆 衛藤 義勝 遠藤 文夫

賛助会員(法人)

※敬称略 五十音順

- エーザイ株式会社 MSD株式会社 キッセイ薬品工業株式会社 杏林製薬株式会社 第一三共株式会社 田辺三菱製薬株式会社 帝人ファーマ株式会社 株式会社ナチュラルサイエンス Meiji Seika ファルマ株式会社 医療社団法人 メディカル・プロ 株式会社メディセオ 森永乳業株式会社 和光堂株式会社

協賛企業

※敬称略 五十音順

- アステラス製薬株式会社 一般財団法人 阪大微生物病研究会 MSD株式会社 塩野義製薬株式会社 ジャパン・ワクチン株式会社 武田薬品工業株式会社 中外製薬株式会社 大日本住友製薬株式会社 日本イーライリリー株式会社 日本ケミカルリサーチ株式会社 日本マクドナルド株式会社 ノボルディスクファーマ株式会社 マルホ株式会社

寄付者 ※敬称略

- 芦田 信 衛藤 義勝 稲葉 裕之

御 礼

賛助会員および寄付、協賛企業の皆様のご協力により平成24年度も若手小児科医師へのアワード授与、研究、海外留学を支援することができました。

ご支援に心より御礼申し上げます。

理事長 柳澤 正義

賛助会費ご納入のお願い

この度、平成25年度の賛助会費の納入依頼状を送付させて頂きました。今年度よりコンビニエンスストアでの払込も可能となりましたので、どうぞご利用ください。

お送りしました払込用紙には、平成24年度以前の賛助会費未払い分の金額も加算されておりますので、口数(1口/年10,000円)変更を希望される場合は事務局までご連絡ください。

事務局



公益財団法人 小児医学研究振興財団 JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B TEL (03) 5818-2601 / FAX (03) 5818-2602 e-mail:shouni-iken@jfpedres.or.jp

ホームページ

http://www.jfpedres.or.jp/

「子どもたちの世紀」について

News Letter題字の「子どもたちの世紀」は、日本小児科学会が創立百周年を迎えた当時の厚生大臣であられた小泉純一郎先生に揮毫をお願いしてご快諾頂き、総理大臣ご在任中にお書きいただいたものです。

編集後記

ご多忙の中、本号に玉稿をお寄せいただきました厚生労働省 桑島昭文母子保健課長に深謝いたします。

来たる7月7日(日)、「予防接種 受けなかつたらどうなるの?」をテーマに、予防接種に関する市民公開講座を開催いたします。計画策定をご指導頂きました加藤達夫先生、ご多忙の中、講師をお引き受け頂きました五十嵐隆先生、多屋馨子先生、宮入烈先生に御礼申し上げます。また、日本小児科学会、国立成育医療研究センター並びに各方面からご支援・ご協力を賜りましたこと、併せて厚くお礼申し上げます。

(事務局長 村松宣孝)